

教育シラバス

syllabus
(授業計画)

理学療法学科

学校法人 阿弥陀寺教育学園

国際医療福祉専門学校七尾校

授業科目		総合教養	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般 目 標	ノートやメモのとりかた、挨拶、マナーなど社会人基礎力を向上させ、社会のモラルやルールなどの資質面の教養を養う。 専門領域で必要とされる基礎学力(一般漢字・医学漢字や数基礎)を養う。			
行 動 目 標	1. 社会のモラルやルールを理解し実践できる。 2. 一般漢字の読み書きができる。 3. 医学漢字の読み書きができる。 4. 医学漢字の意味を説明することができる。 5. 数基礎の基本が理解できる。			
スケジュール				
1回目	社会のモラルとルール			
2回目	コミュニケーション・身だしなみ			
3回目	接遇			
4回目	ノート・メモの取り方、学習の仕方			
5回目	一般漢字の読み書き			
6回目	医学漢字の読み書き			
7回目	医学漢字の意味を説明			
8回目	数基礎の復習			
評価 方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科 書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)			
参考 書・ 資料 等	特になし。			
履修 上の 注意	特になし。			

授業科目		基礎数学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		大角 幸治	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	観測データをコンピュータなどで解析するのに必要な、基礎的な数学を学ぶ。 SPIIにおける計算能力(割合、割引、速度算、三角関数)の理解を深め、習得する。			
行動目標	割合、割引、速度算、三角比について説明することができる。			
スケジュール				
1回目	一般的な数式や計算方法の基礎			
2回目	割合			
3回目	割引			
4回目	速度算1			
5回目	速度算2			
6回目	三角比1			
7回目	三角比2			
8回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	つながる高校数学(ベレ出版) 新しい数学2・3(東京書籍) 数学Ⅱ(数研出版)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		生命倫理学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生命倫理の基本的課題ならびに諸問題についての基礎的知識を修得する。 人間の尊厳・倫理的課題への対処能力を養う。			
行動目標	人間としての価値を学び考え、社会を構成する一人として正しく生活することができる。 職業人としての在り方、規範を学び誇り高く専門職として社会に貢献することができる。			
スケジュール				
1回目	倫理とは 人権と倫理その定義と歴史			
2回目	患者の権利と生命倫理 生殖医療			
3回目	患者の権利と生命倫理 脳死・臓器移植			
4回目	患者の権利と生命倫理 終末期医療			
5回目	インフォームド・コンセントと意思決定の支援			
6回目	医療者－患者関係におけるコミュニケーション			
7回目	患者中心の医療とチーム医療			
8回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	生命倫理への招待(南山堂)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		ボランティア論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	ボランティアに関する基本的な知識を深め、医療・介護におけるその役割と意義を理解する。 ボランティア活動に参加する場合とそれを受け入れる場合の双方の立場から、必要な教育や組織運営のあり方などを学習する。			
行動目標	ボランティアの役割と意義について述べることができる。 ボランティア活動に参加し、実践することができる。			
スケジュール				
1回目	ボランティアとは			
2回目	接遇について			
3回目	能力の高めかた			
4回目	コミュニケーションについて			
5回目	施設内での注意事項			
6回目	介護保険制度と個人情報保護について			
7回目	ボランティアの実際について			
8回目	施設でのボランティア体験の実際			
評価方法	ボランティア経験を主題とした課題レポートと出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	ボランティア論(ミネルヴァ書房)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		コミュニケーション技術概論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		非常勤講師	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	対象者との人間関係やコミュニケーションについて理解するとともに、その家族あるいは多職種におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための能力を習得する。			
行動目標	1. 医療介護現場におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解することができる。 2. 利用者・家族とのコミュニケーションを理解し、実践することができる。 3. 多職種とのコミュニケーションを理解し、実践することができる。			
スケジュール				
1回目	関係作りのための人間理解(1)			
2回目	関係作りのための人間理解(2)			
3回目	人間関係の形成(1)			
4回目	人間関係の形成(2)			
5回目	コミュニケーションの基礎(1)			
6回目	コミュニケーションの基礎(2)			
7回目	コミュニケーションの技法と実際(1)			
8回目	コミュニケーションの技法と実際(2)			
評価方法	レポート課題(50%)と筆記試験(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	人間の理解(中央法規) コミュニケーション技術(中央法規) コミュニケーションの教科書(フォレスト出版)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		人間関係論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		井上 明浩	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般 目 標	コミュニケーションの技術について、講義及びグループワークを通じて、自己理解を深める。 コミュニケーションの知識、技法を学ぶことにより、日常の人間関係を良好に保つ能力を身に付け、良好な関係づくりの基盤を学ぶ。			
行 動 目 標	1.人間関係における社会的相互作用やコミュニケーションの基礎的知識と技術を身に付ける。 2.自己を理解する理論と基礎的技術を身に付ける。			
スケジュール				
1回目	倫理とは 人権と倫理その定義と歴史			
2回目	患者の権利と生命倫理 生殖医療			
3回目	患者の権利と生命倫理 脳死・臓器移植			
4回目	患者の権利と生命倫理 終末期医療			
5回目	インフォームド・コンセントと意思決定の支援			
6回目	医療者－患者関係におけるコミュニケーション			
7回目	患者中心の医療とチーム医療			
8回目	まとめ			
評価 方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科 書	教材を適宜配布する。			
参考 書・ 資料 等	人間関係論入門(金子書房)			
履 修 上 の 注 意	特になし。			

授業科目		心理学入門	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		大角 幸治	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間理解の基礎を学ぶ(人間の心のしくみと行動)。			
行動目標	1. 心理学が扱うテーマについて説明できる。 2. 性格および発達、心に与える影響について理解する。 3. 日常生活の中で、心理学がどのように応用されるか説明することができる。			
スケジュール				
1回目	心理学と日常生活の関わり方(概要)			
2回目	視知覚と運動知覚のしくみと特性			
3回目	記憶のメカニズムとその特性			
4回目	言語の機能とイメージの役割			
5回目	条件づけのメカニズムとその応用			
6回目	学習と熟達化の過程			
7回目	感情とパーソナリティの特性と適応機制			
8回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	コンパクト新心理学ライブラリ 1「心理学」 ～心のはたらきを知る～(サイエンス社)			
参考書・資料等	心理学概論 臨床心理学シリーズ(培風館)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		英語会話	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		非常勤講師	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	英語会話に必要な不可欠となる基本文法を学ぶとともに、自分の意見をまとめ、相手の意見を理解する練習を通して、ディスカッションやディベートができるようにする。			
行動目標	1. 英語の基本文法を理解できる。 2. 簡単な日常会話を英語でできるようになる。 3. 簡単な英語の文章で自分の考えや事実が表現できるようになる。			
スケジュール				
1回目	Unit1: 英文のルールと品詞		Unit2: そんな時、動詞の前に前置詞が	
2回目	Unit3: 三単現のS		Unit4: -esをつける場合	
3回目	Unit5: 不規則活用動詞の過去形		Unit6: 規則活用動詞の過去形	
4回目	Unit7: 動詞(V)が2語以上		Unit8: 現在完了	
5回目	Unit9: 未来系		Unit10: 進行系	
6回目	Unit11: 現在完了と現在完了進行形		Unit12: 疑問文の作り方	
7回目	Unit13: 疑問詞を使った疑問文		Unit14: 否定文の作り方	
8回目	Unit15: 接続詞		Unit16: 主節と従属節	
9回目	Unit17: 名詞と代名詞		Unit18: 関係代名詞	
10回目	Unit19: 関係疑問文		Unit20: 関係副詞	
11回目	Unit21: 自動詞と他動詞		Unit22: 5文型	
12回目	Unit23: 受動態		Unit 24: 2つの英文と準動詞	
13回目	Unit25: 分詞		Unit26: 不定詞	
14回目	Unit27: 知覚動詞と使役		Unit28: 分詞構文	
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	Simply Traveling (金星堂)			
参考書・資料等	Attack Your Problems with English Grammar―大学生のための基本文法項目28(松柏社)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		医療英語	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般 目 標	臨床で使われている医療英語に関する基本的な知識を深める。			
行 動 目 標	各分野で使われている医療英語(略語、物品名、疾患名)を説明することができる。 医学英語を適切に使えることができる。			
スケジュール				
1回目	身体、診療科、専門職種の名称について			
2回目	骨格、関節の運動方向の名称について			
3回目	医学用語の成立ちの法則			
4回目	問診について			
5回目	医学専門用語、略語について			
6回目	疾患名、障害名について①			
7回目	疾患名、障害名について②			
8回目	医療器具の名称について			
評 価 方 法	マーク試験(80%)＋小テスト(10%)＋ノート(10%) 合格基準:得点率60%以上			
教 科 書	教材を適宜配布する。			
参 考 書 ・ 資 料 等	概論や解剖学で使用した教科書			
履 修 上 の 注 意	特になし。			

授業科目	情報科学	履修年次	1年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大角 幸治	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	基本的なパソコンの設定から電子メール、ワープロ、表計算、プレゼン等のアプリケーションソフトの使い方を学び、電子カルテの基本的な操作まで学ぶ。すでに使用してある程度使いこなしている学生もいると思うが、我流で使っている場合が多く、データを扱う上でのマナーを無視している場合が多い。基本的なマナーを確認しながら授業を進める。		
行動目標	1. インターネット検索ができるようになる。 2. オフィスソフトの基本操作ができるようになる。 3. 電子メールの基本操作ができるようになる。		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション、情報セキュリティについて		
2回目	インターネット、文献検索		
3回目	電子カルテ SOAPでの記入		
4回目	パソコンの基本設定		
5回目	ワードの基本操作		
6回目	ワードでの文書の作成		
7回目	ワードでのレポートの作成		
8回目	電子メール(WEBメール)の使い方		
9回目	エクセルの基本操作		
10回目	エクセルでのデータ処理、統計処理		
11回目	エクセルでのグラフ作成		
12回目	パワーポイントの基本操作		
13回目	パワーポイントでプレゼンする		
14回目	オフィスソフトの連携		
15回目	パソコン操作実技試験		
評価方法	実技試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	イチからしっかり学ぶ!Office基礎と情報モラル(noa出版)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目	スポーツ科学	履修年次	1年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	井上 明浩	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間にとって運動の必要性とスポーツがからだに働きかけてその能力を考えていく知識、方法等を科学的な事実を通して学んでいく。また、障害者に対するスポーツ指導の基礎知識を学ぶ。		
行動目標	1. スポーツについて理解する。 2. 障害者スポーツの意義と理念について説明ができる。 3. 障害を理解し、障害者スポーツについて説明ができる。		
スケジュール			
1回目	文化としてのスポーツ①		
2回目	文化としてのスポーツ②		
3回目	障害者スポーツの意義と理念①		
4回目	障害者スポーツの意義と理念②		
5回目	障害者福祉施策と障害者スポーツ①		
6回目	障害者福祉施策と障害者スポーツ②		
7回目	障害者スポーツにおける安全管理		
8回目	公益財団法人日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導者制度		
9回目	全国障害者スポーツ大会の概要		
10回目	障害の理解とスポーツ(身体障害)		
11回目	障害の理解とスポーツ(内部障害)		
12回目	障害の理解とスポーツ(知的障害)		
13回目	障害の理解とスポーツ(精神障害)		
14回目	障害の理解とスポーツ(高齢者)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	障害者スポーツ指導教本 初級・中級 改訂版(ぎょうせい)		
参考書・資料等	全国障害者スポーツ大会 競技規則集(解説付) 日本障害者スポーツ協会編		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		スポーツ科学実習	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		井上 明浩	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	一般的な体カトレーニング方法を実践しながら学ぶ。また、全国スポーツ障害者スポーツ大会の目的と意義を理解し、障害者に対するスポーツ指導の理論を学び実践する。			
行動目標	1. 一般的な体カトレーニング方法について説明ができる。 2. 障害者スポーツの指導についての基礎を理解することができる。			
スケジュール				
1回目	トレーニング論			
2回目	スポーツ心理学			
3回目	スポーツと栄養			
4回目	障害者のスポーツ指導における留意点			
5回目	全国障害者スポーツ大会の歴史と目的と意義			
6回目	全国障害者スポーツ大会選手団の編成とコーチの役割			
7回目	全国障害者スポーツ大会の実施競技			
8回目	全国障害者スポーツ大会の障害区分①			
9回目	全国障害者スポーツ大会の障害区分②			
10回目	障害者とのスポーツ交流準備①			
11回目	障害者とのスポーツ交流準備②			
12回目	石川県障害者スポーツ協会主催の障害者スポーツ教室並びに講習会への参加(カローリング、卓球バレー)			
13回目				
14回目	石川県障害者スポーツ大会への運営ボランティア「スポーツパートナー」としての参加			
15回目				
評価方法	実技試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	障害者スポーツ指導教本 初級・中級 改訂版(ぎょうせい)			
参考書・資料等	全国障害者スポーツ大会 競技規則集(解説付) 日本障害者スポーツ協会編			
履修上の注意	特になし。			

授業科目	解剖学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	4単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	医療従事者にとって必要とされる人体の基本構造と機能を理解することを目的とする。 医学用語・解剖学用語について学び、疾病の基礎となる正常構造を学習する。		
行動目標	解剖学用語を説明できる。 人体の器官系、組織系の分類を説明できる。 内臓や感覚器、神経系の位置、名称を説明できる。 筋骨格の組織構造が説明できる。 中枢神経系(脳と脊髄)の構成や位置について説明できる。 関節靱帯の組織構造が説明できる。 末梢神経系(脊髄神経)の構成や位置について説明できる。		
スケジュール			
1回目/2回目	人体の概要と解剖学用語		
3回目/4回目	人体の構成		
5回目/6回目	内臓学(呼吸器系・循環器系を除く)		
7回目/8回目	感覚器系		
9回目/10回目	循環器系		
11回目/12回目	呼吸器系		
13回目/14回目	筋骨格系(総論)		
15回目/16回目	神経系(総論) 神経系区分、構成、脳、脊髄、伝導、反射		
17回目/18回目	関節靱帯総論		
19回目/20回目	関節靱帯各論(上肢帯、上肢)		
21回目/22回目	関節靱帯各論(下肢帯、下肢)		
23回目/24回目	関節靱帯各論(頭頸部、体幹)		
25回目/26回目	人体の発生／末梢神経系の構成と脊髄神経		
27回目/28回目	末梢神経系(頸・腕神経叢)		
29回目/30回目	末梢神経系(胸神経、腰仙骨尾骨神経叢)		
評価方法	筆記試験(100%) 内容:単元試験3回(50点×3)と定期試験(250点) 合計400点満点 合格基準:得点率60%以上(合計240点以上)		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)		
参考書・資料等	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系(医学書院) ネッター解剖学アトラス(南江堂) PT・OT基礎から学ぶ解剖学ノート(医歯薬出版)		
履修上の注意	随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目	解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士として必要とされる人体の基本構造と機能について神経系を中心に学ぶ。 脳や脊髄、脊髄神経、脳神経および自律神経系の基本構造を総論的に学ぶ。 代表的な脊髄・脳の疾患について、障害部位と症状との関連について学ぶ。 腕神経叢や腰神経叢、仙骨神経叢の走行とその障害されやすい部位について学ぶ。		
行動目標	神経系の基本的な構成について理解する。 脳や脊髄、脊髄神経、脳神経および自律神経系の構造を理解し、機能と関連づけて説明できる。 代表的な脊髄・脳の疾患について、障害部位と症状との関連を理解できる。 腕神経叢や腰神経叢、仙骨神経叢の走行について理解し、障害されやすい部位について説明ができる。		
スケジュール			
1回目	神経系総論(中枢神経系)		
2回目	大脳皮質の構造と機能		
3回目	大脳皮質のスケッチ		
4回目	脳波、大脳辺縁系の構造と機能		
5回目	大脳基底核の構造と機能		
6回目	小脳		
7回目	辺縁系、基底核、小脳のスケッチ		
8回目	脳幹		
9回目	脊髄 機能と解剖		
10回目	脊髄 反射(Ⅰa、Ⅰb抑制、 γ -roop)		
11回目	脊髄伝導路(上行路)		
12回目	脊髄伝導路(下行路)		
13回目	脊髄伝導路(上行路)のスケッチ		
14回目	脊髄伝導路(下行路)のスケッチ		
15回目	中枢神経のまとめ		
評価方法	筆記試験(100%) 内容:単元試験3回の平均(50点)と定期試験(100点) 合計150点満点 合格基準:得点率60%以上(合計90点以上)		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)		
参考書・資料等	病気がみえる vol.7 脳・神経(メディックメディア)		
履修上の注意	随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 脳、脊髄のスケッチ課題を仕上げる事。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目		解剖学実習		履修年次	1年次
				単 位 数	2単位
授業形態		講義ならびに実習		必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		近藤 陽久		オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	医療従事者にとって必要とされる人体の基本構造と機能を理解することを目的とする。 医学用語・解剖学用語について学び、疾病の基礎となる正常構造を学習する。				
行動目標	骨のスケッチを完成させる。 筋の起始停止、作用を口頭質問で答えられる。 骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を正確に知る。 頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤、上肢の骨、下肢の骨の構成や特徴について把握する。 骨格筋の一般的な構造と機能を理解する。 人体の主要な骨格筋について、その構造を知り、作用を理解する。				
スケジュール					
1回目/2回目	上肢の骨の講義				
3回目/4回目	上肢の骨のスケッチ				
5回目/6回目	上肢の骨のスケッチ				
7回目/8回目	下肢の骨の講義				
9回目/10回目	下肢の骨のスケッチ				
11回目/12回目	下肢の骨のスケッチ				
13回目/14回目	頭頸部、体幹の骨の講義				
15回目/16回目	頭頸部、体幹の骨のスケッチ				
17回目/18回目	上肢の筋の講義と筋の走行図				
19回目/20回目	上肢の筋の重要筋口頭質問				
21回目/22回目	上肢の筋の重要筋口頭質問				
23回目/24回目	下肢の筋の講義と筋の走行図				
25回目/26回目	下肢の筋の重要筋口頭質問				
27回目/28回目	下肢の筋の重要筋口頭質問				
29回目/30回目	頭頸部、体幹の筋の走行図、重要筋口頭質問				
評価方法	筆記試験(100%) 内容:単元試験(25%)と模型試験(25%)定期試験(50%) 合計100% 合格基準:得点率60%以上				
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院)				
参考書・資料等	ボディ・ナビゲーション(医道の日本社) 重要筋リスト				
履修上の注意	随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 骨のスケッチブックを完成させる。 重要筋リストの口頭質問に答える。筋の走行図に起始停止、作用を記載する。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。				

授業科目		生理学	履修年次	1年次
			単 位 数	4単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	解剖学の知識を土台に人体における植物性機能および動物性機能についての生理学的メカニズムを広く学ぶ。			
行動目標	人体における植物性機能(循環、呼吸、消化、排泄、内分泌、代謝、血液)に関する基本的知識を修得する。 人体における動物性機能(脳神経、自律神経、筋肉、運動生理、感覚)に関する基本的知識を修得する。			
スケジュール				
1回目/2回目	血液			
3回目/4回目	消化と吸収			
5回目/6回目	腎臓と排泄			
7回目/8回目	循環器系			
9回目/10回目	呼吸器系			
11回目/12回目	内分泌			
13回目/14回目	末梢神経系(脳神経)			
15回目/16回目	代謝と体温			
17回目/18回目	運動生理			
19回目/20回目	感覚			
21回目/22回目	人体の発生／性と生殖			
23回目/24回目	筋の収縮			
25回目/26回目	細胞と内部環境			
27回目/28回目	神経の興奮伝導と末梢神経			
29回目/30回目	末梢神経系(自律神経)／酸－塩基平衡			
評価方法	筆記試験(100%) 内容:単元試験2回(50点×2)と定期試験(200点) 合計300点満点 合格基準:得点率60%以上(合計180点以上)			
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院)			
参考書・資料等	イラストでまなぶ生理学(医学書院) PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート(医歯薬出版)			
履修上の注意	随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目	生理学実習	履修年次	1年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義ならびに実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	由久保 弘明、近藤 陽久、石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人体機能のメカニズムについて理解を深める。生理学の講義で得た知識を各実習によってより深めることを目的とする。		
行動目標	①各実習における機材の基本操作ができるようになる。 ②各実習におけるデータを分析し、説明することができる。 ③各実習におけるデータを考察し、展開することができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	各学習課題の説明と講義		
3回目/4回目	心電図・負荷心電図(1)		
5回目/6回目	心電図・負荷心電図(2)		
7回目/8回目	心電図・負荷心電図(3)		
9回目/10回目	バイタル測定・各種データの見方(1)		
11回目/12回目	バイタル測定・各種データの見方(2)		
13回目/14回目	バイタル測定・各種データの見方(3)		
15回目/16回目	表在感覚・深部感覚(1)		
17回目/18回目	表在感覚・深部感覚(2)		
19回目/20回目	表在感覚・深部感覚(3)		
21回目/22回目	表面筋電図・運動神経伝導速度の測定(1)		
23回目/24回目	表面筋電図・運動神経伝導速度の測定(2)		
25回目/26回目	表面筋電図・運動神経伝導速度の測定(3)		
27回目/28回目	各学習課題の講義と復習1		
29回目/30回目	各学習課題の講義と復習2		
評価方法	筆記試験(60%)と課題レポート(30%)、授業態度(10%)、その他出席率等を考慮して総合的に評価する。 合格基準:得点率60%以上		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 基礎運動学 (医歯薬出版)		
参考書・資料等	イラストでまなぶ生理学(医学書院) PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート(医歯薬出版)		
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学、生理学全般をよく理解しておく必要があります。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目	運動学	履修年次	1年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人体における筋、靱帯骨関節神経などの基本的知識理解を深め、筋骨格系の機能特性を理解する。		
行動目標	生体力学における運動学と運動力学を理解する。Z 上肢、下肢、体幹の基本構造と関節運動、靱帯及び筋の作用を理解する。 姿勢と姿勢制御について理解する。 歩行分析について理解する。 運動学習について理解する。		
スケジュール			
1回目	生体力学の基礎(1)		
2回目	生体力学の基礎(2)		
3回目	運動器の構造と機能		
4回目	肩複合体の構造と機能		
5回目	肘関節・前腕・手の運動学		
6回目	股関節の運動学		
7回目	膝関節の運動学		
8回目	足関節の運動学		
9回目	脊柱、体幹の運動学		
10回目	頭頸部の運動学(呼吸を含む)		
11回目	姿勢の運動学		
12回目	歩行周期		
13回目	歩行時の筋活動、モーメント、床反力		
14回目	歩行時のエネルギー消費量、異常歩行		
15回目	運動学習		
評価方法	単元試験(50点満点)3回の平均50点 定期試験100点 合計150点満点とする。 合格基準:90点(6割)以上。		
教科書	理学療法・作業療法テキスト 運動学(中山書店)		
参考書・資料等	基礎運動学 (医歯薬出版)		
履修上の注意	随時、小テストおよび単元別テストを実施し、段階的に学習状況を確認していく。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目		運動学実習	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義ならびに実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		由久保 弘明、近藤 陽久、石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実習を通して運動学の知識を深めることを目的とする。正確な観察とデータの収集をして、実習結果を科学的な報告書としてまとめることを重点におき、必要な知識について深める。			
行動目標	①各実習において観察データを分析し、説明することができる。 ②各実習における実習結果をレポートとしてまとめることができる。			
スケジュール				
1回目/2回目	各学習課題の説明と講義			
3回目/4回目	身体運動と力学(1)			
5回目/6回目	身体運動と力学(2)			
7回目/8回目	身体運動と力学(3)			
9回目/10回目	生体力学の基礎(1)			
11回目/12回目	生体力学の基礎(2)			
13回目/14回目	生体力学の基礎(3)			
15回目/16回目	姿勢と重心動揺(1)			
17回目/18回目	姿勢と重心動揺(2)			
19回目/20回目	姿勢と重心動揺(3)			
21回目/22回目	生体観察と機能解剖学(1)			
23回目/24回目	生体観察と機能解剖学(2)			
25回目/26回目	生体観察と機能解剖学(3)			
27回目/28回目	各学習課題の講義と復習1			
29回目/30回目	各学習課題の講義と復習2			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。 合格基準: 得点率60%以上			
教科書	基礎運動学 (医歯薬出版) 解剖学(医学書院) 基礎運動学 (医歯薬出版)			
参考書・資料等	運動学実習(医歯薬出版)			
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学全般をよく理解しておく必要があります。 毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目		人間発達学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	胎児期から老年期に至る発達段階について身体的、知的、情緒的、社会的な側面等様々な角度から理解する。			
行動目標	1. 新生児期の正常発達について説明ができる。 2. 幼児期の正常発達について説明ができる。 3. 児童期から老年期の正常発達について説明ができる。			
スケジュール				
1回目	人間発達の概念と理論			
2回目	発達検査と姿勢反射および反応			
3回目	運動発達			
4回目	姿勢反射・反応と6歳までの発達、上肢機能の発達			
5回目	ADLの発達			
6回目	感覚・知覚・認知・社会性の発達			
7回目	学童・青年・成人・老年期の発達			
8回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	生涯人間発達学(三輪書店)			
参考書・資料等	イラストでわかる人間発達学(医歯薬出版)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		リハビリテーション医学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		松本 清明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション医学に関する基本的な知識を深め、医療・介護におけるその役割と意義を理解する。			
行動目標	1. リハ医学の理念と障害について述べることができる。 2. 各疾患像とリハビリテーションについて述べることができる。			
スケジュール				
1回目	脳卒中概要 急性期、回復期、維持期			
2回目	摂食・嚥下障害			
3回目	高次機能障害、言語障害			
4回目	頭部外傷、低酸素脳症			
5回目	脊髄損傷、脊椎疾患			
6回目	神経変性疾患、パーキンソン病			
7回目	末梢神経疾患、顔面神経麻痺			
8回目	内部障害、骨・関節疾患、呼吸・循環器疾患			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	リハビリテーションビジュアルブック(学研)			
参考書・資料等	リハ医学のすすめ(三輪書店)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		内部障害学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		能登総合病院内科医	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	症候学、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患、消化器疾患、総胆肝疾患、循環器疾患の障害について、その病因、病態の理解を深め、疫学、臨床像、検査などについて幅広く学習する。			
行動目標	代表的な症候学、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患、消化器疾患、総胆肝疾患、循環器疾患の障害について、病因、病態、疫学、臨床像を説明できる。 上記の疾患患者の留意事項を説明できる。			
スケジュール				
1回目	症候学			
2回目	呼吸器疾患(1)			
3回目	呼吸器疾患(2)			
4回目	腎・泌尿器疾患			
5回目	消化器疾患			
6回目	肝胆膵疾患			
7回目	循環器疾患(1)			
8回目	循環器疾患(2)			
評価方法	マークシート形式による試験(80%)と毎回の講義後の課題レポート(20%)を考慮して総合的に評価する。			
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)			
参考書・資料等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院)			
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。 疾患を理解する為に必要と思われる基礎知識を受講前に復習しておくことで、よりスムーズについてくることが可能になるでしょう。			

授業科目	骨関節障害学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高澤 雅至	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	骨関節障害に関する基本的知識を習得し、整形外科疾患について病因や診断、治療法、予後について学ぶ。		
行動目標	骨関節障害の基礎知識を理解することができる。 骨関節障害の各種診断方法を理解することができる。 骨関節障害の各種治療方法を理解することができる。 骨関節障害疾患について理解することができる。		
スケジュール			
1回目	(総論)4-5 慢性関節疾患		
2回目	(総論)4-6 関節リウマチと強直性脊椎炎		
3回目	(総論)4-8 末梢神経障害(1)		
4回目	(総論)4-8 末梢神経障害(2)		
5回目	(総論)4-9 深部静脈血栓症 4-10 腱・腱鞘の疾患		
6回目	(各論)6-2 頸椎・脊椎(1)		
7回目	(各論)6-2 頸椎・脊椎(2)		
8回目	(各論)6-3 胸椎 6-4 腰椎(1)		
9回目	(各論)6-4 腰椎(2)		
10回目	(各論)6-6 肩関節および上腕 6-7 肘関節および前腕(1)		
11回目	(各論)6-7 肘関節および前腕(2) 6-8 手関節および手指		
12回目	(各論)6-10 股関節および大腿(1)		
13回目	(各論)6-10 股関節および大腿(2)		
14回目	(各論)6-11 膝関節および下腿(1)		
15回目	(各論)6-11 膝関節および下腿(2) 6-12 足関節および足		
評価方法	マークシート形式による試験(80%)と毎回の講義後の課題レポート(20%)を考慮して総合的に評価する。		
教科書	整形外科疾患ビジュアルブック (Gakken)		
参考書・資料等	標準整形外科学(医学書院)		
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。 疾患を理解する為に必要と思われる基礎知識を受講前に復習しておくことで、よりスムーズについてくることが可能になるでしょう。		

授業科目	神経筋障害学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	神経筋障害に関する基本的知識を習得し、神経筋疾患について病因や診断、治療法、予後について学ぶ。		
行動目標	神経筋障害の基礎知識を理解することができる。 神経筋障害の各種診断方法を理解することができる。 神経筋障害の各種治療方法を理解することができる。 神経筋障害疾患について理解することができる。		
スケジュール			
1回目	神経系の構造と機能障害		
2回目	脳梗塞		
3回目	脳出血		
4回目	脳動脈瘤、クモ膜下出血		
5回目	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア、脳の可塑性		
6回目	水頭症、運動調節の異常		
7回目	脊髄空洞症、自律神経系障害、脳神経の障害		
8回目	脱髄性疾患(多発性硬化症など)		
9回目	筋萎縮性側索硬化症		
10回目	パーキンソン病と類縁疾患		
11回目	脊髄小脳変性症		
12回目	ミオパチー(筋ジストロフィーなど)		
13回目	神経筋接合部疾患、ニューロパチー		
14回目	認知症、脳炎、てんかん		
15回目	頭部外傷、意識障害		
評価方法	マークシート形式による試験(80%)と毎回の講義後の課題レポート(20%)を考慮して総合的に評価する。		
教科書	病気がみえる vol.7 脳・神経(メディックメディア)		
参考書・資料等	脳神経疾患ビジュアルブック(学研) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)		
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。 疾患を理解する為に必要と思われる基礎知識を受講前に復習しておくことで、よりスムーズについてくることが可能になるでしょう。		

授業科目	病理学	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	疾病の原因および形態的变化を、主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。		
行動目標	1. 病因論や退行性病変・進行性病変について述べることができる。 2. 代謝異常疾患について述べることができる。 3. 循環障害・自己免疫疾患について述べることができる。 4. 感染症について述べることができる。 5. 腫瘍・老化・先天異常について述べることができる。 6. 臓器別の病因や病態について述べることができる。		
スケジュール			
1回目	第1～3-1章(概要、病因論、退行性病変)		
2回目	第3-2章(進行性病変)		
3回目	第4-1章(代謝異常 蛋白、脂質、糖質)		
4回目	第4-2章(代謝異常 無機質、色素)		
5回目	第5-1章(循環障害)		
6回目	第5-2章(循環障害)		
7回目	第6-1章(免疫)		
8回目	第6-2(自己免疫疾患)第7-1章(炎症)		
9回目	第7-2章(感染症)		
10回目	第7-3章(感染症)		
11回目	第8章(腫瘍)第9章(老化)		
12回目	第10章(染色体とDNA)第11章(先天異常)		
13回目	各論 第1～3章(循環器、呼吸器、消化器1)		
14回目	各論 第3～4章(消化器2、神経系1)		
15回目	各論 第4章(神経系3) 第5章(運動器)		
評価方法	マークシート形式による試験(80%)と毎回の講義後の課題レポート(20%)を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(医学書院)		
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学・生理学全般をよく理解しておく必要があります。疾患を理解する為に必要と思われる基礎知識を受講前に復習しておくことで、よりスムーズについてくることが可能になるでしょう。		

授業科目	精神障害学	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	公立能登総合病院 精神科医	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神疾患あるいは精神障害を有する患者の理解に必要な、基本的な症候や疾患の知識について学ぶ。		
行動目標	1. 精神医学と主症状について述べることができる。 2. 統合失調症・気分障害について述べることができる。 3. 外因性・内因性・心因性の精神障害について述べることができる。 4. てんかん、発達障害について述べることができる。		
スケジュール			
1回目	精神科総論		
2回目	精神症状論・精神科治療学(非薬物療法)		
3回目	統合失調症・気分障害		
4回目	神経症・心身症		
5回目	パーソナリティ障害・睡眠障害		
6回目	外因性精神障害		
7回目	てんかん、発達障害		
8回目	まとめ		
評価方法	マークシート形式による試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	精神神経疾患ビジュアルブック(学研)		
参考書・資料等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(医学書院)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		画像診断学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		近藤、由久保	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	画像診断を行うための様々な検査法(単純・造影X線写真、CT、MRI、超音波検査、血管撮影など)の原理と臨床応用の実際について学ぶ。リハビリテーション分野での主な対象である骨関節疾患、脳血管障害をはじめとする神経疾患などの画像診断の特徴的な所見などについて学習する。			
行動目標	1. X線・MRI・CTの原理と臨床の実際について述べることができる。 2. 骨折画像の診断に関する知識を述べることができる。			
スケジュール				
1回目	画像診断学総論			
2回目	造影X線・MRI・CT写真の原理と臨床の実際			
3回目	骨関節障害について(脊柱)			
4回目	骨関節障害について(上肢・下肢)			
5回目	脳(脳梗塞、その他の脳障害)			
6回目	脳(脳出血、その他の脳障害)			
7回目	内臓(X線画像・CT・MRIでの基本部位の確認)			
8回目	内臓(疾患の読み撮り方)			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	基礎から学ぶ画像の読み方(医歯薬出版)			
参考書・資料等	画像診断コンパクトナビ(医学教育出版社)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		臨床薬学	履修年次	2年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		公立能登総合病院 薬剤師	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床薬学の主たる目的は、薬物作用、作用機序、治療的応用性などを明らかにすることによって、薬物治療における適切な医薬品の選択、適正な用法の基礎を理解する。			
行動目標	1. 薬物の投与経路や半減期について述べることができる。 2. 薬物の作用・副作用について述べることができる。 3. 薬物中毒について述べることができる。 4. 薬物の管理と新薬の誕生について述べることができる。 5. 救急救命に用いる薬剤について理解し、説明することができる。			
スケジュール				
1回目	臨床薬学の定義			
2回目	薬の投与経路			
3回目	生物学的半減期			
4回目	薬物に影響する因子			
5回目	薬物中毒			
6回目	薬の作用点			
7回目	薬の管理と新薬の誕生			
8回目	救急救命処置に用いる薬剤①			
9回目	救急救命処置に用いる薬剤②			
10回目	注意を要する薬剤①			
11回目	注意を要する薬剤②			
12回目	輸液・輸血製剤①			
13回目	輸液・輸血製剤②			
14回目	保存と管理			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	コメディカルのための薬理学(朝倉書店) 救急救命標準テキスト(へるす出版)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		栄養学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	栄養は健康と深い関わりを持っており、食物が健康状態に影響を与えている。健康的な食生活を送るために必要な栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と健康づくりについて学ぶ。			
行動目標	1. 日常生活の中での健康や栄養について考え、課題や問題点に気づくことができる。 2. 栄養素の種類や機能について学び、理解することができる。 3. 体内でおこっている消化や吸収という現象について学び、役割について理解することができる。 4. 専門分野において、栄養面について理解を深めることにより、より対象者に有益な対応ができる。			
スケジュール				
1回目	人と栄養、健康と栄養・食生活			
2回目	食品の成分と機能			
3回目	からだのしくみと栄養素の働き			
4回目	栄養状態の評価、食事摂取基準と私たちの食生活			
5回目	ライフステージと栄養			
6回目	日常生活と栄養			
7回目	生活習慣病と栄養			
8回目	現代社会の食と栄養			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	健康づくりの栄養学(建帛社)			
参考書・資料等	基礎栄養学(南江堂)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		救急救命処置論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		救急救命学科 教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	救急医療や災害医療、病院前医療の体制についての知識を習得する。 救急救命処置に必要な観察や緊急度・重症度判断、資機材による観察についての知識を修得する。			
行動目標	1. 緊急・災害・病院前医療体制について理解し、説明ができる。 2. 一般的な症状や重篤な症状の観察方法・緊急度・重症度判定について理解し、説明ができる。 3. 資機材による観察方法を理解し、説明ができる。 4. 救急救命処置の基本を理解し、説明ができる。 5. 救急蘇生法の基本を理解し、説明ができる。			
スケジュール				
1回目	緊急医療・災害医療・病院前医療の体制			
2回目	現場活動の基本			
3回目	全身状態の観察・局所の観察			
4回目	緊急度・重症度判断			
5回目	資機材による観察			
6回目	救急救命処置法			
7回目	救急蘇生法			
8回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(50%)と実技演習(50%)によって総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	救急救命士標準テキスト・上巻下巻(へるす出版) 日本救急医学会ICLSコースガイドブック(羊土社)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目	保健医療福祉概論	履修年次	1年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	岩本 潤一	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	社会保障(福祉)制度について理解し、臨床現場で役立つ知識を修得する。 患者(利用者)支援に役立てる知識を修得する。		
行動目標	1. 社会保障(福祉)制度を理解し、説明することができる。 2. 患者(利用者)支援の種類や方法について説明することができる。		
スケジュール			
1回目	社会福祉の基礎理論		
2回目	思想と倫理		
3回目	社会福祉の歴史		
4回目	欧米における社会福祉の歴史的展開		
5回目	他国の社会福祉		
6回目	社会福祉の援助対象		
7回目	社会福祉のニーズ		
8回目	社会福祉の制度体系		
9回目	社会福祉基礎構造		
10回目	社会福祉の法制度		
11回目	社会福祉の行政		
12回目	国の社会福祉財政		
13回目	社会福祉施設と財政		
14回目	社会福祉と民間福祉活動		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	社会福祉用語辞典(中央法規出版)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		リハビリテーション概論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地球的な規模で社会が急激に変化している。リハビリテーションはその中で高齢社会における社会的関心から、科学技術の高度な発展から、ともに影響を免れ得ない。そのような中でのリハビリテーションについて学習する。			
行動目標	1. リハビリテーションの理念について述べることができる。 2. 障害分類と障害心理、ADL評価の意義について述べることができる。 3. リハビリテーションチームとその医療の流れについて述べることができる。 4. 健康増進や介護予防について述べることができる。 5. リハビリテーション計画・予後予測・リスク管理について述べることができる。			
スケジュール				
1回目	リハビリテーションの理念			
2回目	障害分類と障害心理・ADL評価の意義			
3回目	リハビリテーションチーム・リハビリテーション医療の流れ			
4回目	老化と健康、健康とスポーツ			
5回目	廃用症候群、介護保険・介護予防			
6回目	運動機能および精神機能の見方			
7回目	リハビリテーション計画、予後予測			
8回目	リハビリテーションリスク管理			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	リハビリテーションビジュアルブック(学研)			
参考書・資料等	リハ医学のすすめ(三輪書店)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		地域包括ケアシステム論	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域のニーズに応じた地域包括ケアシステムの概要を理解し、各分野における生活支援を目的としたアプローチの方法について修得する。			
行動目標	1. 地域ケアシステムの目的、意義について理解する。 2. 地域ケアシステムの構築に必要な手法を学び、理解する。 3. 地域におけるケアシステムの現状と課題、護職の役割について考察を深めることができる。			
スケジュール				
1回目	地域包括ケアシステムの在り方			
2回目	生活支援のための介護保険サービス			
3回目	保健医療福祉政策の過程			
4回目	健康維持と障害予防			
5回目	退院時における多職種連携について			
6回目	在宅における多職種連携について			
7回目	ケアマネジメントにおける多職種の役割、連携について			
8回目	障害者の地域生活に必要な生活支援			
評価方法	レポート課題(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	地域包括ケアと地域医療連携(勁草書房) 地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略(中央法規)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		理学療法学概論	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	我が国における理学療法の歴史と現状、理学療法士の役割を学習し、理学療法のイメージを明確にする。専門課程における理学療法学履修のための導入科目として、理学療法総論を講義する。			
行動目標	1.理学療法の概要と歴史を理解する。 2.理学療法の法律を理解する。 3.理学療法の対象を理解する。 4.理学療法の活動分野について理解する。			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション、理学療法の紹介			
2回目	理学療法の概念と歴史			
3回目	理学療法士の法律			
4回目	理学療法の意義と役割			
5回目	理学療法の対象			
6回目	理学療法士の組織と倫理			
7回目	理学療法士教育			
8回目	理学療法士の活動分野			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	理学療法学概論テキスト(南江堂)			
参考書・資料等	目で見えるリハビリテーション医学(東京大学出版会) 理学療法概論 第5版 (医歯薬出版)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		基礎理学療法学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		松本 清明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法において基礎となる解剖学や生理学、運動学の基礎科目を臨床と結びつける。 理学療法の枠組みと理論を理解し、系統的な理学療法が構築できる能力を養う。			
行動目標	生体の形と動きを理解する。 筋の生理学的作用について理解する。 姿勢、歩行について運動学的に理解する。 筋力低下、筋細胞の壊死と再生について理解する。 脳の可塑性と運動障害について理解する。 痛みの病態メカニズムを理解する。 関節可動域障害の病態メカニズムを理解する。 創傷治癒、靱帯損傷治癒のメカニズムを理解する。			
スケジュール				
1回目	生体力学と運動力学的分析			
2回目	基本動作障害、姿勢と歩行			
3回目	痛み、関節可動域障害			
4回目	筋力と筋持久力、筋力低下			
5回目	筋細胞の壊死と再生のメカニズム、創傷・靱帯損傷治癒のメカニズム			
6回目	脳の可塑性と運動・動作障害および運動学習の科学的基盤、筋緊張異常			
7回目	感覚障害、協調性障害			
8回目	運動麻痺、平衡機能障害			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	リハビリテーションビジュアルブック第2版			
参考書・資料等	(ビジュアルレクチャー)基礎理学療法学			
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目	理学療法学セミナーⅠ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	2年生の実施している理学療法評価の内容を見学し、評価の意義を理解する。また、患者役を体験することで、患者視点からの問題への気づきを拡大する。 患者設定で必要となる病態像や障害像を把握するため前期に学んだ解剖学などの基礎医学の知識を復習する。		
行動目標	メモを取り、見学した内容をデイリーノートに記載することができる。 見学した内容に即した自己学習ができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	解剖学・解剖学実習の基礎知識のまとめ		
3回目/4回目	1-3 コミュニケーション技法		
5回目/6回目	2-3 脈拍と血圧の測定		
7回目/8回目	2-11 反射検査(腱反射・病的反射)		
9回目/10回目	2-5 ROM-T(上肢・足関節背屈)		
11回目/12回目	2-6 MMT(上肢・下肢)		
13回目/14回目	まとめ① 1-8 移乗介助		
15回目/16回目	3年生総合臨床実習発表会の参加		
17回目/18回目	3年生 ⇒ 2年生、1年生 情報伝達会(縦割り)		
19回目/20回目	症例問題1 2-11 反射検査(下肢) 2-6 MMT(下肢)		
21回目/22回目	症例問題2 2-5 ROM-T(下肢) 2-1 療法士面接(問診)		
23回目/24回目	症例問題3 2-10 感覚検査(表在・深部・複合)		
25回目/26回目	症例問題4 2-7 形態測定		
27回目/28回目	まとめ② 実習プロフィール・抱負作成		
29回目/30回目	解剖学・生理学・運動学の基礎知識のまとめ		
評価方法	デイリーノート(50%)と筆記試験(50%)、その他、態度などの情意面、出席率等を考慮して総合的に評価する		
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)		
参考書・資料等	リハビリテーションビジュアルブック(学研)		
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。		

授業科目		理学療法学セミナーⅡ		履修年次	2年次
				単 位 数	2単位
授業形態		実習		必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		理学療法学科全教員		オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	2年次の臨床実習に向け、検査と測定を中心とした臨床技能を修得する。 OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者役の1年生に対して課題を70%以上みたすことができるよう、検査と測定の手順の確認やその技術の正確性・速度の確立を目指す。				
行動目標	1. 評価を行うために必要な準備ができる。 2. 患者に配慮した行動がとれる。 3. 1年生に実施している内容の意味を説明できる。 4. 評価結果をまとめ、考察をつけて報告できる。				
スケジュール					
1回目/2回目	基礎医学・臨床医学の基礎知識のまとめ				
3回目/4回目	1-3 コミュニケーション技法				
5回目/6回目	2-3 脈拍と血圧の測定				
7回目/8回目	2-11 反射検査(腱反射・病的反射)				
9回目/10回目	2-5 ROM-T(上肢・足関節背屈)				
11回目/12回目	2-6 MMT(上肢・下肢)				
13回目/14回目	まとめ① 1-8 移乗介助				
15回目/16回目	3年生総合臨床実習発表会の参加				
17回目/18回目	3年生 ⇒ 2年生、1年生 情報伝達会(縦割り)				
19回目/20回目	症例問題1 2-11 反射検査(下肢) 2-6 MMT(下肢)				
21回目/22回目	症例問題2 2-5 ROM-T(下肢) 2-1 療法士面接(問診:疼痛)				
23回目/24回目	症例問題3 2-10 感覚検査(表在・深部・複合)				
25回目/26回目	症例問題4 2-7 形態測定				
27回目/28回目	まとめ② 実習プロフィール・抱負作成				
29回目/30回目	基礎分野・専門分野の基礎知識のまとめ				
評価方法	毎回のOSCEについて技能面が70%以上を満たさない場合は、再試験を行う。 OSCEの得点平均(20%)と定期試験の得点(40%)、デイリーノート(40%)を考慮して総合的に評価する。				
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)				
参考書・資料等	リハビリテーションビジュアルブック(学研)				
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。				

授業科目		理学療法学セミナーⅢ	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	就職活動時に必要な履歴書の書き方や面接試験の対策を行う。 理学療法士についての職業理解を深め、自分の将来像を具体的にイメージできるようにする。			
行動目標	職業像の具体的なイメージを言えるようになる。 履歴書を作成できる。 理学療法士を目指した理由などを説明できる。 模擬面接で適切な態度・的確な言葉で志望理由・動機、自己アピールなどの受け答えができる。 小論文を起承転結を用いて作成できる。			
スケジュール				
1回目	職業理解と将来像			
2回目	職業意識を身に付ける			
3回目	就職先希望調査と施設情報の集め方			
4回目	求人票の見方から応募書類の発送まで			
5回目	履歴書・エントリーシートの書き方①			
6回目	履歴書・エントリーシートの書き方②			
7回目	履歴書・エントリーシートの書き方③			
8回目	ビジネスマナー・身だしなみ講座①			
9回目	ビジネスマナー・身だしなみ講座②			
10回目	小論文の書き方①			
11回目	小論文の書き方②			
12回目	小論文の書き方③			
13回目	面接対策講座①			
14回目	面接対策講座②			
15回目	面接対策講座③			
評価方法	小論文(50%)と模擬面接(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	特になし。			
参考書・資料等	特になし。			
履修上の注意	就職試験を想定した演習である為、身だしなみはもちろん受け答えや態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。			

授業科目		理学療法研究法Ⅰ	履修年次	3年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	研究の意義について考えるとともに、研究計画の立案方法や研究を進める上で必要な基本的な知識について学ぶ。			
行動目標	1. 文献の検索方法について説明できる。 2. 文献の読み方について説明できる。 3. 研究の必要性和流れについて説明できる。 4. 研究デザインについて説明できる。 5. 研究計画の構成を理解し、研究計画書を作成できる。			
スケジュール				
1回目	文献とは何か			
2回目	文献検索の仕方と文献レビュー			
3回目	文献の読み方			
4回目	文献の孫引きについて			
5回目	文献抄読と医学用語			
6回目	考察の書き方			
7回目	介入研究			
8回目	観察研究			
9回目	EBPT			
10回目	診療ガイドライン			
11回目	研究の必要性和流れ			
12回目	研究テーマの発見			
13回目	疑問の展開と仮説			
14回目	研究計画の立案と研究デザイン			
15回目	研究結果の公表方法 *ポスター演題			
評価方法	成績評価は研究計画書(80点満点)と小テスト(20点満点)の合計で判定する。 また、出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	理学療法研究法(医学書院) はじめての研究法(神陵文庫)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		理学療法研究法Ⅱ	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法研究テーマ別にグループワークで文献的考察を行う。 研究結果のまとめ方として統計学的処理の基本について学ぶ。			
行動目標	1. 疾患別で文献的考察ができる。 2. 考察をまとめレジュメ発表ができる。 3. 統計学的処理の基本について理解できる。 4. T検定をエクセルソフトを使用して実施できる。			
スケジュール				
1回目/2回目	対象と観察因子、尺度、検定法			
3回目/4回目	代表値、正規分布、結果のまとめ方			
5回目/6回目	有意水準、帰無仮説、対立仮説、第一種の過誤			
7回目/8回目	F検定、Studentとwelchのt検定の演習			
9回目/10回目	散布図の作成と回帰・相関の演習			
11回目/12回目	抄読会①			
13回目/14回目	抄読会②			
15回目	抄読会③			
評価方法	レジュメ発表の内容(40%)と課題レポート(中枢神経障害系30%、骨関節障害系30%)を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	理学療法研究法(医学書院) はじめての研究法(神陵文庫)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		理学療法特論Ⅰ	履修年次	2年次
			単位数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床実習および国家試験対策として2分野(共通分野:基礎医学、臨床医学、専門分野:PT基礎、PT治療学)をテーマ別に講義を展開する。学内模擬試験をととして臨床実習で求められる基礎知識の確認・復習と国家試験への準備を行う。			
行動目標	1. 共通分野の知識について理解し、説明ができる。 2. 専門分野の知識について理解し、説明ができる。 3. 理学療法士に必要な知識を深め、修得する事ができる。			
スケジュール				
1回目/2回目	整形外科系(共通分野)			
3回目/4回目	中枢神経系(共通分野)			
5回目/6回目	内科系(共通分野)			
7回目/8回目	神経筋系(共通分野)			
9回目/10回目	運動学(共通分野)			
11回目/12回目	運動療法【専門分野】			
13回目/14回目	評価学(ROM-T)【専門分野】			
15回目/16回目	評価学(MMT)【専門分野】			
17回目/18回目	評価学(反射・形態測定・他)【専門分野】			
19回目/20回目	ADL学【専門分野】			
21回目/22回目	内科系【専門分野】			
23回目/24回目	整形外科系①【専門分野】			
25回目/26回目	整形外科系②【専門分野】			
27回目/28回目	中枢神経系①【専門分野】			
29回目/30回目	中枢神経系②【専門分野】			
評価方法	成績判定の材料として学内模試の得点率を平均したものを採用する。なお、出席率や課題レポート等も考慮して総合的に評価する。			
教科書	クエスチョン・バンク理学療法士 共通問題・専門問題(メディックメディア)			
参考書・資料等	国家試験必修ポイント①基礎医学、②臨床医学、③PT基礎、④PT治療学(医歯薬出版)			
履修上の注意	共通分野、専門分野で使用した教科書や講義資料を参考に講義を進めます。			

授業科目		理学療法特論Ⅱ	履修年次	3年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験対策として2分野(共通分野:基礎医学、臨床医学、専門分野:PT基礎、PT治療学)をテーマ別に講義を展開する。学内模擬試験および全国模擬試験をととして国家試験への準備を行う。			
行動目標	1. 共通分野の知識について理解し、説明ができる。 2. 専門分野の知識について理解し、説明ができる。 3. 理学療法士に必要な知識を深め、修得する事ができる。			
スケジュール				
1回目/2回目	内科系(共通分野)／【専門分野】			
3回目/4回目	整形外科系(共通分野)／【専門分野】			
5回目/6回目	中枢神経系(共通分野)／【専門分野】			
7回目/8回目	神経筋系(共通分野)／【専門分野】			
9回目/10回目	脊髄損傷系(共通分野)／【専門分野】			
11回目/12回目	リハ概論(共通分野)			
13回目/14回目	ADL・PT概論【専門分野】			
15回目/16回目	運動学(共通分野)			
17回目/18回目	生体力学【専門分野】			
19回目/20回目	リ小児系(共通分野)／【専門分野】			
21回目/22回目	臨床心理学(共通分野)			
23回目/24回目	精神医学(共通分野)			
25回目/26回目	評価学【専門分野】			
27回目/28回目	義肢装具学【専門分野】			
29回目/30回目	運動療法／物理療法【専門分野】			
評価方法	成績判定の材料として学内模試・全国模試の得点率を採用する。 単位認定は次の条件1～3の何れかを満たすこととする。 ＜条件1＞①と②の両方を満たすもの ①【出願判定試験(12月中旬に実施)】 得点率50%以上 ②【受験判定試験(1月末に実施)】 得点率60%以上 ＜条件2＞ ③【卒業判定試験(2月中旬に実施)】 得点率60%以上 ＜条件3＞ ④《全国模試》 全7回の中で得点率60%以上を1回以上			
教科書	クエスチョン・バンク理学療法士 共通問題・専門問題(メディックメディア)			
参考資料等	国家試験必修ポイント①基礎医学、②臨床医学、③PT基礎、④PT治療学(医歯薬出版)			
履修上の注意	共通分野、専門分野で使用した教科書や講義資料を参考に講義を進めます。			

授業科目		理学療法管理学	履修年次	3年次
			単 位 数	2単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	他職種との連携が求められるリハビリテーション部門の管理・運営についての必要な知識や具体的な実際について理解を深める。 医療従事者として必要な職業倫理観を理解し、法的思考能力を習得する。			
行動目標	1. 組織体制と運営について説明できる。 2. 業務・人事労務管理について説明できる。 3. リスクマネジメント・経営管理について説明できる。 4. 人権・法的義務について理解する。 5. インフォームド・コンセントについて理解する。 6. 情報管理の仕方について理解する。 7. 医療事故や医療過誤について説明することができる。			
スケジュール				
1回目	リハビリテーション科における管理とは			
2回目	組織化について			
3回目	業務管理について			
4回目	人事労務管理について			
5回目	教育システムについて			
6回目	管理者のあるべき姿について			
7回目	リスクマネジメントについて			
8回目	経営管理について			
9回目	医療と人権			
10回目	医療・介護従事者に問われる法的義務			
11回目	インフォームド・コンセント			
12回目	情報管理のあり方			
13回目	安楽死、尊厳死、終末期医療			
14回目	医療事故、医療過誤			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック(メジカルビュー) 職業の倫理学(丸善株式会社)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目	理学療法評価学Ⅰ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	基本的な理学療法評価の流れや意義・目的について理解する。 ICIDH、ICFによる障害モデルについて学修する。 トップダウンとボトムアップによる理学療法評価の手順を理解する。 全体像を把握するための手段として診療記録のSOAPについて理解する。		
行動目標	1. 基本的な理学療法評価の流れや意義・目的について説明できる。 2. ICIDH、ICFによる障害モデルについて説明できる。 3. トップダウンとボトムアップによる理学療法評価の手順を説明できる。 4. 診療記録のSOAPについて説明できる。		
スケジュール			
1回目	理学療法評価の意義・目的・流れ		
2回目	障害モデル(ICIDH、ICF)		
3回目	トップダウンとボトムアップによる臨床思考過程		
4回目	統合と解釈		
5回目	全体像の捉え方(病態像、障害像、生活像)		
6回目	診療記録の見方と書き方		
7回目	医療面接の意義、目的と進め方		
8回目	バイタルサインの測定とフィジカルアセスメント		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)		
参考書・資料等	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ(中山書店)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目	理学療法評価学Ⅱ	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法における評価の枠組みを理解し、心身機能と構造の評価に関する知識と技術を習得する。		
行動目標	1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	理学療法評価と障害モデル		
3回目/4回目	統合と解釈		
5回目/6回目	全体像把握(診断情報、医療面接、フィジカルアセスメント)		
7回目/8回目	形態測定		
9回目/10回目	関節可動域測定(1) 基本		
11回目/12回目	関節可動域測定(2) 実技		
13回目/14回目	関節可動域測定(3) 実際		
15回目/16回目	筋力検査(1) 基礎		
17回目/18回目	筋力検査(2) MMTの基本		
19回目/20回目	筋力検査(3) MMTの実際1(上肢)		
21回目/22回目	筋力検査(4) MMTの実際2(下肢、頭頸部・体幹)		
23回目/24回目	感覚検査		
25回目/26回目	反射検査		
27回目/28回目	協調性検査		
29回目/30回目	ADL・QOL		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ(中山書店) 新・徒手筋力検査法(協同医書)		
参考書・資料等	理学療法評価学テキスト(南江堂) 図解 理学療法技術ガイド 第3版(文光堂)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		画像評価学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		非常勤講師	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	骨関節疾患、脳血管障害をはじめとする神経疾患などの画像から機能障害を推測し、それを検査・測定する各種評価の選定や必要とされる理学療法プログラムの立案について学修する。			
行動目標	1. 部位・疾患ごとの画像所見から機能障害の推測ができる。 2. 画像所見から各種評価の選定ができる。 3. 理学療法プログラムの立案ができる。			
スケジュール				
1回目	脳血管障害①(脳梗塞、ラクナ梗塞)			
2回目	脳血管障害②(脳出血、硬膜下・硬膜外出血、水頭症)			
3回目	脊髄・脊椎疾患①(脊髄小脳変性症、脊髄損傷)			
4回目	脊髄・脊椎疾患②(OPLL、椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折)			
5回目	骨関節疾患①(四肢の骨折、鎖骨骨折)			
6回目	骨関節疾患②(前・後十字靱帯、半月板、アキレス腱、肩腱板)			
7回目	骨関節疾患③(関節リウマチ、変形性関節症、人工関節)			
8回目	肺疾患(肺炎、COPD、腫瘍)			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	基礎から学ぶ画像の読み方(医歯薬出版)			
参考書・資料等	PT・OTのための画像のみかた(金原出版)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目	理学療法評価学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価の考え方と計測方法を実践的に学ぶ。各評価の関連性を身につけ、全体像を把握する。		
行動目標	1. 対象者に検査・測定のアオリエンテーションを行うことができる。 2. 検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査を正しく行え、その結果を正しく判断することができる。 4. リスクに配慮した検査・測定を行うことができる。 5. 各評価の関連性を身につけ、全体像を把握することができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	オリエンテーション(評価実習の到達目標について)		
3回目/4回目	問診と情報収集		
5回目/6回目	姿勢分析		
7回目/8回目	バランス評価		
9回目/10回目	運動器ROMの注意点		
11回目/12回目	運動器MMTの注意点		
13回目/14回目	協調性検査		
15回目/16回目	中枢神経MMTの注意点		
17回目/18回目	中枢神経ROMの注意点		
19回目/20回目	筋緊張検査		
21回目/22回目	姿勢反射		
23回目/24回目	高次脳機能検査		
25回目/26回目	ADL評価		
27回目/28回目	動作分析		
29回目/30回目	総合演習		
評価方法	実技試験(50%)と筆記試験(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	理学療法評価学改訂(金原出版株式会社) 理学療法評価学テキスト(南江堂) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)		
参考書・資料等	新・徒手筋力検査法(協同医書) 図解 理学療法技術ガイド 第3版(文光堂)		
履修上の注意	検査・測定といった実技を中心と行うため、講義時間以外でも練習すること。 また、理学療法評価学の復習のみならず、解剖学、運動学などの専門基礎科目の復習を行っておくこと。		

授業科目		動作分析学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動学の知識をもとに疾患・障害別の動作について分析する能力を修得する。 動作の観察から分析へ展開し、その内容を説明できる能力を修得する。			
行動目標	1. 股・膝・足関節障害の動作分析について説明できる。 2. 腰部・頸部障害の動作分析について説明できる。 3. 片麻痺患者の動作分析について説明できる。 4. 脊髄損傷の動作分析について説明できる。 5. パーキンソン病の動作分析について説明できる。			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション			
2回目	股関節障害(変形性股関節症)			
3回目	膝関節障害(変形性膝関節症)			
4回目	足関節障害(足関節捻挫)			
5回目	足関節障害(アキレス腱炎)			
6回目	腰部障害(腰痛症)			
7回目	頸部障害(頸椎症性脊髄症)			
8回目	感覚障害(片麻痺)			
9回目	運動障害(片麻痺)			
10回目	脊髄損傷(対麻痺)			
11回目	脊髄損傷(四肢麻痺)			
12回目	錐体外路障害(パーキンソン病)			
13回目	協調運動障害(失調症)			
14回目	スポーツ障害(投球障害肩)			
15回目	まとめ			
評価方法	実技試験(50%)と筆記試験(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	動作分析臨床活用講座(メジカルビュー社) PT・OTのためのOSCE(金原出版)			
参考書・資料等	臨床動作分析(医学書院) 理学療法評価学テキスト(南江堂)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		運動療法学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法のもっとも大きな柱として運動療法は位置づけられているが、基本になっている知識は解剖学、生理学、運動学である。本講義ではそれらの基礎を復習しながら、代表的な運動療法の理論を学び、できるだけ実践的な例を挙げて講義する。			
行動目標	1. 運動療法の概念について説明できる。 2. 代表的な運動療法を列挙することができる。 3. 代表的な運動療法の内容やその治療効果について説明できる。			
スケジュール				
1回目	運動療法の概念			
2回目	関節可動域の改善			
3回目	筋力・筋持久力の改善			
4回目	ストレッチング			
5回目	体力の改善			
6回目	協調性の改善			
7回目	中間まとめ			
8回目	バランスの獲得・改善			
9回目	姿勢保持の改善			
10回目	基本動作の獲得・改善			
11回目	歩行の獲得・改善			
12回目	痛みの軽減・除去			
13回目	PNFアプローチ			
14回目	モビライゼーション			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	運動療法学(金原出版)			
参考書・資料等	標準理学療法学 運動療法学(総論)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目	運動療法学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士として社会に出て活躍するために必要な運動療法の知識、技術について実習を通して習得する。		
行動目標	1. 基本的な関節可動域運動を実施することができる。 2. 基本的な筋力増強運動を実施することができる。 3. PNFの初歩的な技術を実施することができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	関節可動域運動(上肢)1		
3回目/4回目	関節可動域運動(上肢)2		
5回目/6回目	関節可動域運動(上肢実技試験)		
7回目/8回目	関節可動域運動(下肢、体幹)1		
9回目/10回目	関節可動域運動(下肢、体幹)2		
11回目/12回目	関節可動域運動(下肢、体幹実技試験)		
13回目/14回目	筋力強化運動(上肢)		
15回目/16回目	筋力強化運動(上肢)		
17回目/18回目	筋力強化運動(上肢実技試験)		
19回目/20回目	筋力強化運動(下肢、体幹)		
21回目/22回目	筋力強化運動(下肢、体幹)		
23回目/24回目	筋力強化運動(下肢、体幹実技試験)		
25回目/26回目	基本動作獲得のための指導方法		
27回目/28回目	PNFアプローチ		
29回目/30回目	まとめ		
評価方法	実技試験(50%)と筆記試験(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	運動療法学(金原出版)		
参考書・資料等	運動療法学各論(医学書院) 図解 理学療法技術ガイド 第3版(文光堂)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目	物理療法学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。		
行動目標	1. 物理療法の概念について説明できる。 2. 代表的な物理療法を列挙することができる。 3. 代表的な物理療法の内容やその治療効果について説明できる。		
スケジュール			
1回目	理学療法の中での物理療法の位置づけ 各種物理療法の歴史的背景		
2回目	治療項目別の歴史 基礎物理学知識		
3回目	光線関連(逆2乗 ランバートの法則)温度、水、音波の特性 温熱効果・作用		
4回目	温熱作用・効果(復習) 寒冷作用・効果 牽引作用・効果 適応・禁忌		
5回目	温熱療法詳細 ・ホットパック パラフィン浴 赤外線		
6回目	超音波		
7回目	最小紅斑量テスト 低出力レーザー 極超短波		
8回目	超短波 水治療法総論 ハバード浴 渦流浴		
9回目	交代浴 水中運動 カルボーネンの式 牽引療法の総論		
10回目	牽引療法 各論 CPM 間欠的圧迫療法		
11回目	マッサージ 門制御理論		
12回目	電気療法総論		
13回目	FES TENS 詳細(各論)		
14回目	HVS 干渉波刺激療法 電気診断 筋電図バイオフィードバック		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	物理療法学(金原出版)		
参考書・資料等	物理療法マニュアル(医歯薬出版)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目	物理療法学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	石毛 巖、由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。また、臨床技法として各種疾患に対する適用をシミュレーションする。		
行動目標	1. 温熱療法を実施し、その結果をレポートとして報告することができる。 2. 寒冷療法を実施し、その結果をレポートとして報告することができる。 3. 光線療法を実施し、その結果をレポートとして報告することができる。 4. 電気療法を実施し、その結果をレポートとして報告することができる。 5. 牽引療法を実施し、その結果をレポートとして報告することができる。 6. 水治療法を実施し、その結果をレポートとして報告することができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	1. 温熱療法(伝導熱、対流熱、エネルギー転換熱、輻射熱)における生体皮膚温度の測定実習		
3回目/4回目			
5回目/6回目			
7回目/8回目	2. 寒冷療法(伝導冷却、対流冷却、気化冷却、痙性抑制法)における生体皮膚温度、神経誘発電位の測定実習		
9回目/10回目			
11回目/12回目			
13回目/14回目	3. 光線療法(紫外線、ソフトレーザー療法)における皮膚紅斑反応測定実習		
15回目/16回目			
17回目/18回目			
19回目/20回目	4. 電気療法(経皮的末梢神経電気刺激、神経・筋電気刺激、干渉電流療法)における生体刺激実習及びモーターポイント探索		
21回目/22回目			
23回目/24回目			
25回目/26回目	5. 牽引療法(四肢牽引、脊椎牽引)におけるシミュレーション実習		
27回目/28回目			
29回目/30回目			
評価方法	レポート課題(50%)と実技試験(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	物理療法学(金原出版)		
参考書・資料等	物理療法マニュアル(医歯薬出版)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		義肢装具学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	義肢装具の基礎知識を身につけ、理学療法士として必要なチェックポイントを理解すること学ぶ。			
行動目標	1. 義肢装具の概念について説明できる。 2. 代表的な義肢装具を列挙することができる。 3. 義肢装具のチェックポイントを理解し、説明することができる。			
スケジュール				
1回目	切断と義肢の基礎知識・アライメントの概念			
2回目	大腿切断・膝離断			
3回目	下腿切断・サイム切断			
4回目	股離断・片側骨盤切除・足部切断			
5回目	義手①			
6回目	義手②			
7回目	装具総論			
8回目	上肢装具(1)			
9回目	上肢装具(2)			
10回目	自助具・車椅子			
11回目	下肢装具			
12回目	靴型装具			
13回目	体幹装具・側彎症装具・歩行補助具			
14回目	脳卒中の装具			
15回目	整形外科・RA・対麻痺・小児の装具			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	理学療法テキスト義肢学・装具学(中山書店)			
参考書・資料等	作業療法学全書第9巻義肢装具学(共同医書)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目	義肢装具学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	義肢装具学で学んだ知識を実際に義肢や装具を使用して、理学療法士として必要なチェックポイントを理解すること学ぶ。 短下肢装具の作成を行う。		
行動目標	1. 義肢装具のチェックポイントを実施できる。 2. 簡易的な短下肢装具を作成することができる。		
スケジュール			
1回目	切断の評価		
2回目	断端管理		
3回目	義足のチェックポイント(1)		
4回目	義足のチェックポイント(2)		
5回目	切断の理学療法(1)		
6回目	切断の理学療法(2)		
7回目	頸椎・体幹装具のチェックポイント		
8回目	上肢装具のチェックポイント		
9回目	下肢装具のチェックポイント		
10回目	中枢神経障害装具のチェックポイント		
11回目	小児装具・整形外科治療装具のチェックポイント		
12回目	リハビリテーション機器のチェックポイント		
13回目	装具作成(1)		
14回目	装具作成(2)		
15回目	装具作成(3)		
評価方法	レポート課題(50%)と筆記試験(50%)、出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	理学療法テキスト義肢学・装具学(中山書店)		
参考書・資料等	義肢装具学(医学書院) 義肢装具のチェックポイント(医学書院) 理学療法学テキストⅥ 義肢装具学(神陵文庫)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目		発達障害理学療法学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	正常発達をもとに発達障害児にみられる異常反射について学ぶ。 重症心身障害児等に対する理学療法について学ぶ。			
行動目標	正常発達を理解する。 正常反射反応と異常反射を理解する。 筋ジストロフィーの評価・治療を理解する。 重症心身障害の評価・治療を理解する。 低出生体重児・精神発達遅滞児の評価・治療を理解する			
スケジュール				
1回目	理学療法における正常運動発達、発達障害			
2回目	「発達」胎児期の発達、反射と姿勢の発達			
3回目	「発達」生後1～5ヶ月の発達			
4回目	「発達」生後6ヶ月～の発達			
5回目	発達障害の理学療法・総論			
6回目	脳性麻痺の理学療法(1)			
7回目	脳性麻痺の理学療法(2)			
8回目	筋ジストロフィーの理学療法(1)			
9回目	筋ジストロフィーの理学療法(2)			
10回目	重症心身障害児の理学療法			
11回目	二分脊椎・ダウン症について			
12回目	低出生体重児・精神発達遅滞児について			
13回目	症例検討(1)			
14回目	症例検討(2)			
15回目	まとめ			
評価方法	定期試験100点 合格基準:60点(6割)以上			
教科書	小児理学療法学テキスト (南江堂)			
参考書・資料等				
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則った内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目		発達障害理学療法学実習	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		近藤 陽久、大矢 陽介	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	脳性麻痺(痙直型両麻痺)の乳幼児期や学童期の発達の特徴について正常運動発達をもとに学ぶ。 脳性麻痺の特性に応じた評価や治療目標、治療プログラムの立案方法についての考え方を学ぶ。			
行動目標	脳性麻痺の治療概念を理解する。 脳性麻痺の評価や目標設定、治療計画を立案することができる。 脳性麻痺児の症例検討で、観察による評価ができる。			
スケジュール				
1回目	理学療法における正常運動発達、発達障害の基本的な考え方			
2回目	乳幼児の原始反射の見方、解釈の仕方			
3回目	正常運動発達 1(座位)治療への応用			
4回目	正常運動発達 2(立位・歩行)治療への応用			
5回目	発達障害・中枢神経疾患の評価と治療手技健常人の姿勢及び筋緊張をコントロールする経験			
6回目	脳性麻痺の治療概念と原則			
7回目	脳性麻痺(痙直型両麻痺・乳幼児期) 1発達の特徴Q:発達の過程で獲得できないことはなにか？			
8回目	脳性麻痺(痙直型両麻痺・乳幼児期) 2 評価の仕方目標設定の仕方治療プログラムの立て方			
9回目	脳性麻痺(痙直型両麻痺・乳幼児期) 3 治療の実際			
10回目	脳性麻痺(痙直型両麻痺・乳幼児期) 4 日常生活の工夫 母親指導			
11回目	脳性麻痺(痙直型両麻痺・学童期) 特徴 評価の仕方 問題点の捉え方 目標設定の仕方 治療の仕方			
12回目	演習1 痙直型両麻痺の評価 DVDを使って			
13回目	演習2 痙直型両麻痺の評価 DVDを使って			
14回目	演習3 痙直型両麻痺の評価 DVDを使って			
15回目	まとめ			
評価方法	定期試験100点 合格基準:60点(6割)以上			
教科書	小児理学療法学テキスト(南江堂)			
参考書・資料等				
履修上の注意	正常発達をしっかりと理解して実習に取り組む。 実地臨床に則った内容を中心に学内実習を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目		骨関節障害理学療法学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		非常勤講師、由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	骨関節疾患に対する理学療法の評価・治療の内容を総論と各論に分けてその基礎知識と標準的な臨床技術・応用の理解を深める。			
行動目標	1. 骨関節疾患に対する理学療法の評価と治療の概念について説明できる。 2. 骨関節疾患の理学療法を列挙することができる。 3. 骨関節疾患の理学療法の治療効果について説明できる。			
スケジュール				
1回目	総論			
2回目	股関節疾患①			
3回目	股関節疾患②			
4回目	膝関節疾患①			
5回目	膝関節疾患②			
6回目	足股関節疾患①			
7回目	足股関節疾患②			
8回目	肩関節疾患①			
9回目	肩関節疾患②			
10回目	肘関節疾患			
11回目	手関節疾患			
12回目	脊椎疾患①			
13回目	脊椎疾患②			
14回目	関節リウマチ (RA)			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	Crosslink 運動器理学療法学 (MEDICAL VIEW)			
参考書・資料等	理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(中山書店) 整形外科疾患の理学療法(金原出版)			
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目	骨関節障害理学療法学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	非常勤講師、由久保 弘明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	骨関節疾患症例を課題とし、各症例に対して理学療法評価・治療プログラムを立案する。		
行動目標	1. 骨関節疾患に対する理学療法の評価と治療の立案ができる。 2. 骨関節疾患の理学療法を実施することができる。 3. 整形外科的テストを実施することができる。 4. 骨関節疾患の理学療法の治療効果について説明できる。		
スケジュール			
1回目/2回目	整形外科疾患に対する評価および運動療法①		
3回目/4回目	整形外科疾患に対する評価および運動療法②		
5回目/6回目	整形外科疾患に対する評価および運動療法③		
7回目/8回目	整形外科疾患に対する評価および運動療法④		
9回目/10回目	アスレチックリハビリテーション		
11回目/12回目	上腕損傷の評価と治療		
13回目/14回目	肘・前腕損傷の評価と治療		
15回目/16回目	頸椎疾患の評価と治療		
17回目/18回目	胸椎疾患の評価と治療		
19回目/20回目	腰椎疾患の評価と治療		
21回目/22回目	骨関節障害に対する関節可動域運動		
23回目/24回目	骨関節障害に対する筋力増強運動		
25回目/26回目	骨関節障害に対する歩行・階段昇降練習		
27回目/28回目	骨関節障害に対する移乗動作		
29回目/30回目	整形外科的テスト		
評価方法	実技試験(40%)と筆記試験(40%)、課題レポート(20%)で総合的に評価する。		
教科書	Crosslink 運動器理学療法学 (MEDICAL VIEW)		
参考書・資料等	理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(中山書店) 整形外科疾患の理学療法(金原出版)		
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則った内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目		中枢神経障害理学療法学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		非常勤講師、近藤 陽久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	中枢神経障害の理学療法に関する基礎医学、理学療法評価・基本的治療について学修する。			
行動目標	脳卒中片麻痺の病態と評価、治療の概要を理解する。 脊髄損傷の病態と評価、治療の概要を理解する。 小脳失調症の病態と評価、治療を理解する。 高次脳機能障害について理解する。			
スケジュール				
1回目	脊髄損傷(頸髄損症)			
2回目	脊髄損傷(胸髄・腰髄損症)			
3回目	脳性麻痺・頭部外傷			
4回目	錐体外路系傷害			
5回目	脳卒中の特徴とリハビリテーションでの注意点			
6回目	脳梗塞			
7回目	脳出血			
8回目	くも膜下出血			
9回目	脳卒中の問診・診察・検査			
10回目	脳卒中患者の運動・動作障害			
11回目	脳卒中患者のADL制限、嚥下障害、言語障害			
12回目	高次脳機能障害			
13回目	小脳障害			
14回目	脳幹傷害			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	中枢神経障害理学療法学テキスト (南江堂)			
参考書・資料等				
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則った内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目	中枢神経障害理学療法学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	近藤 陽久、織平 秀一、非常勤講師	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	中枢神経疾患症例を課題とし、各症例に対して理学療法評価・治療プログラムを立案する。		
行動目標	脳卒中片麻痺の評価から問題点と目標設定を行い、治療の立案ができる。 脊髄損傷の評価、治療ができる。 小脳性失調症の評価、治療ができる。 高次脳機能障害の評価治療ができる。		
スケジュール			
1回目/2回目	脳血管障害の理学療法評価法1		
3回目/4回目	脳血管障害の理学療法評価法2		
5回目/6回目	失調症の評価法		
7回目/8回目	四肢麻痺の理学療法 1		
9回目/10回目	四肢麻痺の理学療法 2		
11回目/12回目	片麻痺患者の評価1		
13回目/14回目	片麻痺患者の評価2		
15回目/16回目	四肢麻痺の理学療法 3		
17回目/18回目	四肢麻痺の理学療法 4		
19回目/20回目	脳血管障害の理学療法		
21回目/22回目	脳血管障害の理学療法1		
23回目/24回目	脳血管障害の理学療法2		
25回目/26回目	高次脳機能障害の理学療法		
27回目/28回目	軽度中枢神経障害患者の評価1		
29回目/30回目	軽度中枢神経障害患者の評価2		
評価方法	実技試験(40%)と筆記試験(40%)、課題レポート(20%)で総合的に評価する。		
教科書	中枢神経障害理学療法学テキスト (南江堂)		
参考書・資料等			
履修上の注意	中枢神経障害患者の評価項目を的確に行い、治療方法を考える。 実地臨床に則った内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目		内部障害理学療法学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		田中 秀明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	呼吸・循環・代謝疾患の理学療法の基礎と臨床について学び、リスク管理に必要な知識を身につける。			
行動目標	1. 内部障害疾患に対する理学療法の評価と治療の概念について説明できる。 2. 内部障害疾患の理学療法を列挙することができる。 3. 内部障害疾患の理学療法の治療効果について説明できる。			
スケジュール				
1回目	呼吸器疾患の病態・分類			
2回目	検査データの見方			
3回目	呼吸器疾患の評価			
4回目	呼吸器疾患の理学療法プログラム			
5回目	包括的呼吸リハビリテーション			
6回目	呼吸器疾患の運動負荷試験			
7回目	呼吸器疾患のまとめ			
8回目	循環器疾患の病態生理			
9回目	循環器疾患の診断学、治療学			
10回目	循環器疾患の評価			
11回目	循環器疾患の理学療法プログラム			
12回目	循環器疾患の運動療法の実際			
13回目	代謝疾患の理学療法			
14回目	患者教育とリスク管理			
15回目	循環代謝疾患のまとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	ゴールド・マスター・テキスト 内部障害系理学療法学(MEDICALVIEW)			
参考書・資料等	循環器疾患の理学療法(医歯薬出版)			
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目	内部障害理学療法学実習	履修年次	2年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田中 秀明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	呼吸器理学療法と心疾患リハビリテーションの評価・治療技術について学び、リスク管理に必要な知識を身につける。		
行動目標	1. 内部障害疾患に対する理学療法の評価と治療の立案ができる。 2. 内部障害疾患の理学療法を実施することができる。 3. 内部障害疾患の理学療法の治療効果について説明できる。		
スケジュール			
1回目	胸部の体表解剖、視診、触診		
2回目	打診、聴診(心音、呼吸音)		
3回目	運動耐用能の評価(6分間歩行試験)		
4回目	リラクゼーション、ストレッチ		
5回目	呼吸練習(横隔膜呼吸、口すぼめ呼吸、胸式呼吸、部分呼吸)		
6回目	体位排痰法(体位ドレナージ、スクイーミング)		
7回目	体位排痰法(振動法、揺すり法、軽打法、咳の介助法)		
8回目	心電図モニタリング		
9回目	胸郭可動域運動		
10回目	運動負荷試験(マスター二階段試験)		
11回目	胸部外科術後の理学療法		
12回目	慢性閉塞性肺疾患の理学療法		
13回目	虚血性心疾患の理学療法		
14回目	代謝性疾患(特に糖尿病)の理学療法		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	呼吸リハビリテーション入門(神陵文庫)		
参考書・資料等	循環器疾患の理学療法(医歯薬出版)		
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。		

授業科目		排痰吸引技術論	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士による吸引行為および排痰技術、用手的呼吸介助法について修得する。			
行動目標	1. 理学療法士が行える吸引行為について説明ができる。 2. 喀痰法および排痰法について理解し、実施することができる。 3. 用手的呼吸介助法の技術を修得し、実施することができる。			
スケジュール				
1回目	理学療法士による吸引行為			
2回目	喀痰に対する基礎知識			
3回目	感染対策			
4回目	気道吸引			
5回目	気管挿管・経鼻挿管			
6回目	体位交換と体位肺痰法			
7回目	用手的呼吸介助法(1)			
8回目	用手的呼吸介助法(2)			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	呼吸リハビリテーション(中山書店) 呼吸リハビリテーションの理論と技術(メディカルビュー) 写真でわかる臨床看護技術②(インターメディカ)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		神経筋障害理学療法学	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	神経・筋障害疾患の病態像と障害像を理解し、理学療法評価および治療プログラムを立案する際に必要な基礎を学ぶ。 また、疾患特性のリスク管理についても学ぶ。			
行動目標	1. 神経・筋障害疾患に対する理学療法の評価と治療の概念について説明できる。 2. 神経・筋障害疾患の理学療法を列挙することができる。 3. 神経・筋障害疾患の理学療法の治療効果について説明できる。			
スケジュール				
1回目	神経疾患に対する理学療法理論			
2回目	筋疾患に対する理学療法理論			
3回目	末梢神経障害			
4回目	ギランバレー症候群			
5回目	運動ニューロン疾患			
6回目	筋萎縮性側索硬化症			
7回目	脊髄空洞症			
8回目	脱髄疾患			
9回目	反射性交感神経ジストロフィー			
10回目	進行性筋ジストロフィー			
11回目	筋無力症症候群			
12回目	多発性筋炎			
13回目	神経性神経炎			
14回目	脊髄小脳変性症			
15回目	パーキンソン病			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	病気がみえる(メディックメディア) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)			
参考書・資料等	リハビリテーション神経学(医歯薬出版) 図解 理学療法技術ガイド 第3版(文光堂)			
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準の基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目		神経筋障害理学療法学実習	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	神経・筋障害疾患症例を課題とし、各症例に対して理学療法評価や治療プログラムを実施する技能を修得する。また、神経・筋障害における理学療法評価・治療を進めるうえで必要なリスク管理についても実習を通して修得する。			
行動目標	1. 神経・筋障害疾患に対する理学療法の評価と治療の立案ができる。 2. 神経・筋障害疾患の理学療法を実施することができる。 3. 神経・筋障害疾患の理学療法の治療効果について説明できる。			
スケジュール				
1回目	末梢神経障害の評価			
2回目	末梢神経障害の理学療法①			
3回目	末梢神経障害の理学療法②			
4回目	運動ニューロン疾患の評価			
5回目	運動ニューロン疾患の理学療法①			
6回目	運動ニューロン疾患の理学療法②			
7回目	脱髄疾患の評価			
8回目	脱髄疾患の理学療法①			
9回目	脱髄疾患の理学療法②			
10回目	筋疾患の評価			
11回目	筋疾患の理学療法①			
12回目	筋疾患の理学療法②			
13回目	神経・筋障害理学療法グループワーク①			
14回目	神経・筋障害理学療法グループワーク②			
15回目	神経・筋障害理学療法グループワーク③			
評価方法	実技試験(40%)と筆記試験(40%)、課題レポート(20%)で総合的に評価する。			
教科書	病気がみえる(メディックメディア)			
参考書・資料等	リハビリテーション神経学(医歯薬出版) 図解 理学療法技術ガイド 第3版(文光堂)			
履修上の注意	毎回の授業内容を振り返り、ノートをまとめること。 国家試験出題基準のに基づき、実地臨床に則した内容を中心に授業を展開します。 授業で理解できない内容がある場合は、オフィスアワー等を活用し、担当教員に質問、相談するようにしてください。			

授業科目		日常生活活動学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		松本 清明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法におけるADLの位置づけ、ADLの運動学的分析、ADL評価の実際と疾患別のADL指導について修得する。 ADLの概念やICIDH・ICFとの関係、QOLの関係について修得する。 ADLを運動学的にとらえて分析する方法や代表的ADL評価法を症例をととして学ぶ。			
行動目標	1. ADLの運動学的分析について説明できる。 2. ADL評価について説明することができる。 3. 疾患別のADL指導について説明できる。			
スケジュール				
1回目	施設見学(ADLの実際)①			
2回目	施設見学(ADLの実際)②			
3回目	施設見学(ADLの実際)③			
4回目	ADLの概念と範囲			
5回目	ADLと障害(ICIDH、ICF)			
6回目	ADLとQOL			
7回目	ADLを支援する機器(自助具・補助具など)			
8回目	ADL評価の実際①			
9回目	ADL評価の実際②			
10回目	ADL評価の実際③			
11回目	ADL評価の実際④			
12回目	ADL評価の実際⑤			
13回目	ADL評価の実際⑥			
14回目	生活環境の評価と改善計画・住宅改修と介護保険			
15回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	日常生活活動学・生活環境学(医学書院) PT・OTのためのOSCE(金原出版)			
参考書・資料等	日常生活活動(神陵文庫)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		日常生活活動学実習	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		松本 清明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	日常生活活動に必要な起居や起立、移乗、トイレ、更衣などの基本動作能力を中心に評価・介助・指導する方法を学ぶ。 理学療法分野における日常生活動作の評価および指導の実践について疾患別に修得する。			
行動目標	1. ADLの運動学的分析を実施することができる。 2. ADL評価を実施することができる。 3. 疾患別のADL指導について実施することができる。			
スケジュール				
1回目	理学療法評価学 I 15 ADL・QOL			
2回目	OSCE L3-1(起居)			
3回目	OSCE L3-2(起立)			
4回目	OSCE L3-3(移乗)			
5回目	OSCE L3-4(トイレ)			
6回目	OSCE L3-5(更衣)			
7回目	OSCE L3-6(歩行)			
8回目	OSCEまとめ			
9回目	各論 ADL指導(片麻痺)			
10回目	各論 ADL指導(脊髄損傷)			
11回目	各論 ADL指導(人工関節)			
12回目	各論 ADL指導(リウマチ)			
13回目	各論 ADL指導(神経筋)			
14回目	各論 ADL指導(呼吸・循環)			
15回目	各論まとめ			
評価方法	実技試験(40%)と筆記試験(40%)、課題レポート(20%)で総合的に評価する。			
教科書	日常生活活動学・生活環境学(医学書院) PT・OTのためのOSCE(金原出版) 15レクチャーシリーズ 理学療法評価学 I (中山書店)			
参考書・資料等	日常生活活動(神陵文庫)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		生活環境学	履修年次	1年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		石毛 巖	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	障害者や高齢者を含むすべての人は、環境への適応能力を発揮しながら日常生活や社会生活を営んでいる。このような人々の生活が、心身ともに健康で文化的であるようその質の向上を図っていくために、専門職として必要な住環境や住宅改修、生活支援機器、福祉用具の知識について修得する。			
行動目標	1. 生活環境の概念について説明できる。 2. バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方について理解できる。 3. 障害者・高齢者における住環境調整意義を説明できる。 4. 住環境整備のポイント(手すり、段差解消等)について説明できる。 5. 各疾患に対する生活環境の調整について説明できる。			
スケジュール				
1回目	オリエンテーション、生活環境学の概念			
2回目	生活環境の評価と改善計画			
3回目	福祉用具・自助具の説明			
4回目	生活環境としての住宅・住宅改修			
5回目	各疾患に対するADL、福祉用具の導入			
6回目	ユニバーサルデザインについて			
7回目	フィールドワークの実践、グループ発表			
8回目	まとめ			
評価方法	筆記試験(80%)、課題レポート(20%)で総合的に評価する。			
教科書	日常生活活動学・生活環境学(医学書院)			
参考書・資料等	日常生活活動(神陵文庫)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		地域理学療法学Ⅰ	履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		松本 清明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	「地域リハビリテーション」の全体的な流れ、医療・介護領域のリハビリテーションの在り方、その中における理学療法士の役割について学修する。			
行動目標	1. 地域リハビリテーションの概念を理解する。 2. 急性期・回復期リハビリテーションにおける理学療法士の役割について理解する。 3. 訪問リハビリテーションの内容について理解し、説明することができる。			
スケジュール				
1回目	地域理学療法学総論			
2回目	介護福祉サービス			
3回目	地域包括ケアシステム、終末期リハビリテーション			
4回目	地域理学療法の実践(小児、高齢者)			
5回目	認知症、転倒			
6回目	フレイルとサルコペニア、低栄養			
7回目	尿失禁、摂食嚥下障害			
8回目	まとめ			
評価方法	レポート課題(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	地域理学療法学(医学書院)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		地域理学療法学Ⅱ	履修年次	2年次
			単 位 数	1単位
授業形態		講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員		松本 清明	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生活期や終末期、介護予防の領域における理学療法士の役割を学修する。			
行動目標	1. 生活期リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。 2. 介護予防の取り組みについて理解する。 3. 緩和ケア・終末期リハの関わり方を理解する。			
スケジュール				
1回目	加齢に伴う心身機能の変化			
2回目	高齢者の機能評価①			
3回目	高齢者の機能評価②			
4回目	高齢者に対する理学療法①			
5回目	高齢者に対する理学療法②			
6回目	ポジショニングおよびトランスファー①			
7回目	ポジショニングおよびトランスファー②			
8回目	ポジショニングおよびトランスファー②			
評価方法	レポート課題(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。			
教科書	教材を適宜配布する。			
参考書・資料等	地域理学療法学(医学書院)			
履修上の注意	特になし。			

授業科目		臨床実習対策セミナー I	履修年次	1年次
			単 位 数	2単位
授業形態		実習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員		理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床見学実習対策として、OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者に対して課題を70%以上みたすことができるよう、リスク管理や介助手順の確認、その技術の正確性・速度の確立を目指す。			
行動目標	1. リスク管理および介助を行うために必要な準備ができる。 2. 患者に配慮した行動がとれる。 3. 実施している内容の意味を説明できる。			
スケジュール				
1回目/2回目	1-1 スタンダードプレコーション			
3回目/4回目	1-2 リスク管理			
5回目/6回目	1-3 コミュニケーション技法(1)			
7回目/8回目	1-3 コミュニケーション技法(2)			
9回目/10回目	1-4 ホットパック実施の補助(1)			
11回目/12回目	1-4 ホットパック実施の補助(2)			
13回目/14回目	1-5 三角巾の装着介助(1)			
15回目/16回目	1-5 三角巾の装着介助(2)			
17回目/18回目	1-6 下肢装具の装着介助(1)			
19回目/20回目	1-6 下肢装具の装着介助(2)			
21回目/22回目	1-7 車椅子の駆動介助(1)			
23回目/24回目	1-7 車椅子の駆動介助(2)			
25回目/26回目	1-8 移乗介助(1)			
27回目/28回目	1-8 移乗介助(2)			
29回目/30回目	まとめ			
評価方法	毎回のOSCEについて技能面が70%以上を満たさない場合は、再試験を行う。 OSCEの得点平均(40%)とデイリーノート(60%)を考慮して総合的に評価する。			
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)			
参考書・資料等	リハビリテーションビジュアルブック(学研)			
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。			

授業科目		臨床実習対策セミナーⅡ		履修年次	2年次
				単 位 数	1単位
授業形態		実習		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		理学療法学科全教員		オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床評価実習対策として、OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者に対して課題を70%以上みたすことができるよう、リスク管理や介助手順の確認、その技術の正確性・速度の確立を目指す。				
行動目標	1. リスク管理および介助を行うために必要な準備ができる。 2. 患者に配慮した行動がとれる。 3. 実施している内容の意味を説明できる。				
スケジュール					
1回目	2-1	療法士面接	2-2	面接所見からの高次脳機能障害の推測	
2回目	2-3	脈拍と血圧の測定	2-4	呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価	
3回目	2-5	ROM-T			
4回目	2-6	MMT			
5回目	2-7	形態測定			
6回目	2-8	整形外科疾患別検査			
7回目	2-9	筋の触診			
8回目	2-10	感覚検査			
9回目	2-11	反射検査(腱反射・病的反射)			
10回目	2-12	脳神経監査			
11回目	2-13	脳卒中の麻痺側運動機能の評価			
12回目	2-14	構音障害のスクリーニング	2-15	摂食嚥下障害のスクリーニング	
13回目	2-16	運動失調検査			
14回目	2-17	立位バランスの評価			
15回目	2-18	下肢装具・歩行補助具の調整			
評価方法	毎回のOSCEについて技能面が70%以上を満たさない場合は、再試験を行う。 OSCEの得点平均(40%)とデイリーノート(60%)を考慮して総合的に評価する。				
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)				
参考書・資料等	リハビリテーションビジュアルブック(学研)				
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。				

授業科目		臨床実習対策セミナーⅢ	履修年次	3年次
			単 位 数	1単位
授業形態		実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員		理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	総合臨床実習対策として、OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者に対して課題を70%以上みたすことができるよう、機能障害・能力低下に対する介入の手順、確認、その技術の正確性・速度の確立を目指す。			
行動目標	1. 機能障害・能力低下に対する介入に必要な準備ができる。 2. 患者に配慮した行動がとれる。 3. 実施している内容の意味を説明できる。			
スケジュール				
1回目	3-1 関節可動域運動			
2回目	3-2 筋力増強運動			
3回目	3-3 促通手技			
4回目	3-4 振り子運動			
5回目	3-5 部分荷重練習			
6回目	3-6 物理療法			
7回目	3-7 呼吸練習・排痰手技			
8回目	3-8 構音練習			
9回目	4-1 ポジショニング			
10回目	4-2 起き上がり			
11回目	4-3 起立・着座			
12回目	4-4 移乗			
13回目	4-5 車椅子駆動			
14回目	4-6 歩行			
15回目	4-7 食事、 4-8 更衣			
評価方法	毎回のOSCEについて技能面が70%以上を満たさない場合は、再試験を行う。 OSCEの得点平均(40%)とデイリーノート(60%)を考慮して総合的に評価する。			
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編(金原出版)			
参考書・資料等	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版) リハビリテーションビジュアルブック(学研)			
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。			

授業科目	臨床見学実習	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床における理学療法士の役割を見学実習を通して包括的に体験し、医療従事者としての基本的態度を学ぶ。 理学療法の臨床現場において対象者を身近に感じ取り信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高める。また、評価や治療の一部を体験することで、理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することを目的とする。		
行動目標	1. 施設の業務および役割を理解する。 2. 理学療法士が関わる種々の疾患または障害のある対象者について理解する。 3. 対象者や実習指導者とのコミュニケーションが適切にとれる。 4. 医療従事者としての身だしなみや言葉遣い、行動などが適切にできる。 5. 理学療法士が関わる様々な疾患または障害に対して実施する評価や治療の一部を理解することができる。 6. 理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することができる。		
スケジュール			
実習期間:1週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。			
<内容> 1. 臨床見学実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床見学実習後オリエンテーション 4. 臨床見学実習発表会(レジュメ発表) <実習の実際> 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床見学実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床評価実習	履修年次	2年次
		単 位 数	4単位
授業形態	実習	必要時間数	180時間
担当教員	理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床見学実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価を実施する。 対象者を評価することで理学療法士が関わる様々な疾患や障害を理解し、問題点把握や治療目標の立案を行う。		
行動目標	1. 指導者の助言・指導のもとに立案した評価内容を実施できる。 2. 対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 3. 対象者の病態像や障害像、生活像を把握することができる。 4. 評価の結果をレポートとしてまとめて報告することができる。		
スケジュール			
* 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。 実習期間と必要時間数:4週間の中で施設実習 160 時間(8時間／日 × 5日 ／週間 × 4週間)と実習時間外 16 時間(4時間／週間 × 4週間)、学内における実習前後評価 4 時間(1時間／週間 × 4週間)の合計 180 時間とする。 地域実習(1単位) * 2年次臨床評価実習および3年次総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの実習期間内で地域実習として通算40時間以上 * 実習施設が通所リハビリテーション又は訪問リハビリを併設する場合は、実習期間内で40時間以上の地域実習(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)を実施する。 ＜内容＞ 1. 臨床評価実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で4週間の臨床評価実習を行う。 3. 臨床評価実習後オリエンテーション 4. 臨床評価実習発表会(スライド発表) ＜実習の実際＞ 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で評価の結果から問題抽出を行い、治療目標を立案する。 2. 臨床評価実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術に対する十分な実技練習と疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	総合臨床実習Ⅰ	履修年次	3年次
		単位数	8単位
授業形態	実習	必要時間数	360時間
担当教員	理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床評価実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価および治療技術を実施する。 対象者の問題点把握や治療プログラムの立案を通して理学療法士としての一連の流れを体験する。		
行動目標	1. 対象者の問題点を抽出し、治療プログラムの立案ができる。 2. 指導者の助言・指導のもとに立案した治療プログラムを実施できる。 3. 経験した内容をレポートとしてまとめて報告することができる。 4. 医療人としての役割や責務を理解することができるようになる。		
スケジュール			
* 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。 実習期間と必要時間数:8週間の中で施設実習 320 時間(8時間／日 × 5日／週間 × 8週間)と実習時間外 32 時間(4時間／週間 × 8週間)、学内における実習前後評価 8 時間(1時間／週間 × 8週間)の合計 360 時間とする。 地域実習(1単位) * 2年次臨床評価実習および3年次総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの実習期間内で地域実習として通算40時間以上 * 実習施設が通所リハビリテーション又は訪問リハビリを併設する場合は、実習期間内で40時間以上の地域実習(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)を実施する。 ＜内容＞ 1. 総合臨床実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で8週間の総合臨床実習を行う。 3. 総合臨床実習後オリエンテーション 4. 総合臨床実習発表会(レジュメ発表) ＜実習の実際＞ 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で評価の結果から問題抽出を行い、治療目標や治療計画を立案する。 2. 総合臨床実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術・治療技術に対する十分な実技練習と疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	総合臨床実習Ⅱ	履修年次	3年次
		単 位 数	8単位
授業形態	実習	必要時間数	360時間
担当教員	理学療法学科全教員	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	総合臨床実習Ⅰで得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価および治療技術を実施する。 対象者の問題点把握や治療プログラムの立案を通して理学療法士としての一連の流れを体験する。		
行動目標	1. 対象者の問題点を抽出し、治療プログラムの立案ができる。 2. 指導者の助言・指導のもとに立案した治療プログラムを実施できる。 3. 経験した内容をレポートとしてまとめて報告することができる。 4. 医療人としての役割や責務を理解することができるようになる。		
スケジュール			
* 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。 実習期間と必要時間数:8週間の中で施設実習 320 時間(8時間／日 × 5日／週間 × 8週間)と実習時間外 32 時間(4時間／週間 × 8週間)、学内における実習前後評価 8 時間(1時間／週間 × 8週間)の合計 360 時間とする。 地域実習(1単位) * 2年次臨床評価実習および3年次総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの実習期間内で地域実習として通算40時間以上 * 実習施設が通所リハビリテーション又は訪問リハビリを併設する場合は、実習期間内で40時間以上の地域実習(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)を実施する。 ＜内容＞ 1. 総合臨床実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で8週間の総合臨床実習を行う。 3. 総合臨床実習後オリエンテーション 4. 総合臨床実習発表会(スライド発表) ＜実習の実際＞ 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で評価の結果から問題抽出を行い、治療目標や治療計画を立案する。 2. 総合臨床実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術・治療技術に対する十分な実技練習と疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		